

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連
「国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID)」事後評価報告書

1. 研究課題名：「SARS-CoV-2特異的な免疫記憶の形成と維持機構の解析」

2. 研究代表者名：

日本側：北海道大学 遺伝子病制御研究所教授 村上 正晃

相手側：仏国 パリ大学(デカルト) 医学部 教授/ネッカー小児疾患研究所 免疫学、感染生物学、血液学部門 部長 シモン・フィラトロー

3. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

有効性の高いSARS-CoV-2特異的なワクチン開発に向けて、日仏共同研究により、COVID-19患者から採取した血液を対象に、記憶リンパ球の存在及び細胞表面マーカーについて一定の結果が得られたことは評価できる。また、臨床担当の呼吸器内科グループから検体や臨床情報の提供を受けるとともに、優れた免疫学的解析をCOVID-19にいち早く適用し、ヒトのウイルス感染症を免疫学的側面から深く解析している点は高く評価できる。

今後は、ウイルスやコンピューター解析の研究者等とも連携ができれば、研究がより広く深くなる可能性がある。大きな目標に向けて、研究の飛躍を期待したい。

(2) 交流活動の評価について

フランスの優れた免疫学グループと連携しているとともに、日仏両国チームの役割分担が明確であり、人的移動の制約を克服した交流活動が効果的に進んでいると判断される。ヨーロッパにおける重症患者が多いため、サンプル供給における国際協力に期待が寄せられる。

一方、それぞれが持つ成果についての情報交換が中心のように見受けられるため、今後は人的交流の制約を克服し、双方のシナジーが生まれるような実質的共同研究が深まることを期待したい。

以上